

ものづくり優位性を実感

高橋知事視察 「もつとアピールへ」

恵庭市戸磯 北新金属工業

恵庭市戸磯の金属加工業・北新金属工業(益山利二社長)に25日、高橋はるみ道知事が視察に訪れた。益山社長に案内され、自動車関連の部品などを製造する同社の工場を見学した高橋知事は、「北海道でものづくりができるということを実証していただけており、ありがたい」と語り、道内の製造業振興に強い意欲を見せた。

な土地があり、人材も集めやすい。決められたことをしっかり守るといふ真面目な道民気質もいい」と強調。札幌と

新千歳空港の中間にあり、苫小牧港からも近い恵庭の立地条件について「飛行機も船も鉄道も車も全部使える。恵庭には本州への輸送コストに見合うメリットがある」と説明した。

高橋知事は「北海道の産業は国のインフラ整備ばかりだったが、これからはものづくりでも競争に優位な条件があり、もつとアピールしていかなければ」と話し、同社の今後の活発な事業展開に期待を表した。

高橋知事は「北海道の元氣」を、道経済部産業振興局の職員の「ものづくり企業」視察とし、員らと共に北広島と恵庭で1

社をつ訪れた。

北新金属工業は大府東大阪市の新庄金属工業が1972年に北海道進出のため設立した。資本金2000万円、社員数63人。自動車のオートマチックトランスミッション部品や水温センサー部品などの生産で、道内の自動車産業の一翼を担っている。

2011年に現在の場所に本社を移転し、14年に第2工場、16年に第3工場を新設。同年には経済産業省の「はばたく中小企業300社」にも選ばれている。

視察には恵庭市からも原田裕市長と佐藤秀行経済部長が同行。益山社長と横関健太工場長が知事に同社の事業を説明し、工場内を案内した。

益山社長は「北海道はものづくりに向いている。大規模



工場内で益山社長(左)から説明を受ける高橋知事(同2人目)